

# 寄附講座の研究活動について

平成28年10月26日  
公立大学法人福島県立医科大学

## 1 背景

寄附講座は、企業等からの寄附金を財源として運営しているため、講座運営の透明性、研究活動の実績や成果が求められています。

このことから、本学においては、研究活動等に係る定例報告や研究活動・成果報告会の開催などの報告を受け、寄附者及び外部からの寄附講座アドバイザーによる事業評価を実施することにより、適切な講座運営や研究成果の確保を図るための取組みを行っています。

## 2 寄附講座の活動報告

### (1) 研究活動等に係る定例報告

研究活動（研究達成度の自己評価、今後の方針、学会発表・論文実績等）や診療活動（診療達成度の自己評価、今後の方針）、会計（支出状況や高額支出の運営管理状況）について、定期的（研究活動、診療活動については翌年度の4月、会計については四半期ごと）に報告を受け、必要に応じて助言等を行うなど、大学としてのチェック機能を担保することにより、運営管理体制のさらなる可視化と円滑で適切な講座運営を推進しています。

### (2) 研究活動・成果報告会

寄附講座の研究活動等、成果（論文、特許等）、今後の計画等について、本学教職員・学生、寄附者、関連企業、県内大学関係者等を参集し、年1回（毎年3月頃）報告会を開催しています。

### (3) 寄附講座だより

各寄附講座の研究活動・成果について学内外へ周知するため、年1回（毎年3月頃）発行しています。

## 3 寄附講座の外部評価

### (1) 評価の流れ

- ア 寄附講座ごとに自己評価実施
- イ 寄附者による評価の実施
- ウ ア・イを踏まえた寄附講座アドバイザー及び医療研究推進本部による評価の実施

### (2) 評価者

- 寄附者・・・・・・・・・・・・・回答数25／全寄附者数44
- 寄附講座アドバイザー・・・学外有識者6名

- ・福島県立総合衛生学院 学 院 長 藤 田 禎 三 氏
- ・公立大学法人会津大学 理 事 岩 瀬 次 郎 氏
- ・公益財団法人福島県産業振興センター 理 事 長 鈴 木 清 昭 氏

- ・公益財団法人福島県国際交流協会      専務理事 斎藤隆氏
- ・公立藤田総合病院                              院長 堀川哲男氏
- ・福島県住宅生活協同組合                      理事長 和合アヤ子氏

○医療研究推進本部・・・本部長、副本部長、寄附講座担当教員

#### 4 評価結果

各寄附講座の研究活動報告及び診療実績報告（自己評価）を基礎として、寄附者及び寄附講座アドバイザー等の意見・評価を踏まえ、各講座の評価を取りまとめました。

寄附者及び寄附講座アドバイザー等からは、全般的に、設置計画等に沿って適切に研究活動が展開されているなど、概ね肯定的な意見をいただいたほか、少人数で研究活動を実施している現状を考慮し、医師の確保について努力していくよう助言もありました。

※ 寄附講座の活動として診療活動が無い講座もあります

寄附講座	研究/ 診療	評価	主な意見
心臓病先進 治療学講座	研究	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陽圧呼吸療法に関して、優れた発表をしており、期待以上である。</li> <li>・睡眠呼吸障害の研究では着実に多くの知見を得ている。</li> <li>・今後更に増加する心不全患者の包括的ケアの検討、SDBの診療の啓発活動等に期待する。</li> </ul>
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠呼吸障害の検査、治療において実績も増え、優れた発表をしていただいている。</li> <li>・ポリグラフ、簡易検査など着実な導入を実施している。</li> <li>・心不全患者に対する適切な陽圧呼吸療法の啓発と研究に期待する。</li> </ul>
災害医療支援 講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災地における医療ニーズのデータ収集と分析を行い、それに対する医療体勢の構築に貢献している。</li> <li>・被災地域の復興に貢献することを期待する。</li> <li>・一層の情報発信を期待する。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民のニーズを収集分析しており、継続的かつ地道に取り組んでいただいている。</li> <li>・被災地における医療ニーズを理解して診療活動を行い、その成果をあげている。</li> <li>・昨年度整備された「キビタンネット」等ICTを活用し、情報共有・連携など、活用状況もお教えいただきたい。</li> </ul>
不整脈先端 治療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄附目的である総合的不整脈治療における革新的新医療の普及活動や研究がなされている。</li> <li>・T波評価有用性の発見、不整脈のリスク指標確立など着実な研究成果をあげている。論文数も多い。</li> <li>・計画書に基づいて実績をあげ、今後の発展も期待できるため、実質的にA+と評価できる。</li> </ul>

不整脈先端 治療学講座	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄附目的である総合的不整脈治療における革新的新医療の普及活動や研究がなされている。</li> <li>・ 多数の診療実績があり、期待通りの成果を上げたものと認められる。</li> <li>・ 研究活動の前提となる福島の不整脈診療体制の構築に貢献している。</li> </ul>
腫瘍生体 エレクトロニクス講座	研究	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床応用に向けた基盤となる研究成果が得られ、今後の学術研究の発展が期待される状態である。</li> <li>・ 化学療法と免疫療法の併用による集学的治療、臨床試験を行うと計画にはあるが、至っていないのでは（計画上、臨床試験とあるため）。</li> <li>・ 本来の目的のモニタリングと食欲との関連が不明である。</li> </ul>
地域救急医療 支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄附目的に沿った適切な研究活動が展開されており、期待通りの研究成果をあげているものと認められる。</li> <li>・ 福島市における救急医療ニーズのデータ収集と分析を行い、それに対する医療体勢の構築（研修医プログラムの構築や中学生に対する講習会など）に貢献している。</li> <li>・ 救急医養成と救急医療技術の向上に貢献することを期待している。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄附目的に沿った適切な診療活動が展開されており、期待通りの研究成果をあげているものとする。</li> <li>・ 福島市における救急医療のみならず、ネパール大地震での救急医療の向上にも貢献している。</li> <li>・ 地域医療への一層の貢献を期待する。</li> </ul>
地域産婦人科 支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究成果はもとより、当地域の産婦人科医療体制の充実に大きく貢献いただいている点においても、高く評価できる。</li> <li>・ 一部実験が進んでいない試験があるが、一般への調査、啓発など多岐にわたる活動を展開している。</li> <li>・ 卵巣がんの早期発見に関する研究にも期待したい。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いわき地区の産婦人科医療体制への貢献は大きいといえる。また、人工妊娠中絶や性感染症に対して、小・中・高生を対象とした啓発活動は、地域の特性に合わせた活動として、特筆に値する。</li> <li>・ 若手医師の確保がなされることを期待する。</li> </ul>
多能性幹細胞 研究講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 立上げ年度として、着実、重要な研究成果をあげている（iPS細胞樹立、分化誘導など）。</li> <li>・ 開設後間もないため学術論文等の実績は少ないが、多数の疾患特異的 iPS 細胞株の樹立に成功しており、今後の発展が期待できる。</li> <li>・ 研究ネットワークの構築についても、本格的な取り組みを開始することを期待する。</li> </ul>

先端がん免疫 治療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進医療 A から B へと研究のレベルを上げており、今後の成果を期待できる。</li> <li>・学内講座とも連携しながら、研究計画に沿った研究活動が展開されている。</li> <li>・目的にある新規がん免疫細胞治療安全性の検討については、どのように対応するのか明確にする必要がある。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹状細胞ワクチンの 8 名への臨床応用実施。初年度としては着実。</li> <li>・ワクチン療法を実施したほか、消化管外科の診療科を兼務し、適切な診療を行っている。</li> </ul>
白河総合診療 アカデミー	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔学習プログラムへの参加や地域密着型コホートの立ち上げなど、開設初年度として十分な成果をあげている。</li> <li>・総合診療医の養成・研究の拠点づくりに向けて順調なスタートを切ったものと思われる。</li> <li>・教育・研究・診療をバランス良く行っている。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日勤帯の救急外来を総合診療科医師が専従で担当し、救急医療に貢献し、成果をあげている。</li> <li>・県南地域の診療体制の充実に大きく貢献している。</li> <li>・引き続き、各診療科と連携して、地域医療への貢献を期待する。</li> </ul>
肺高血圧先進 医療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肺高血圧への肺動脈キャパシタンスの有用性、治療標的分子の発見など着実な研究成果がある。</li> <li>・基礎研究の部分での成果が認められる。</li> <li>・右室負荷の新たな指標の発見や、肺高血圧モデルマウスにおける新たな病態機構の発見などがあり、今後の研究発展に期待できる。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福島県内の肺高血圧患者のデータベース化が進められ、患者数の割合に地域差を見出している。また、積極的に疾患の啓発活動を行い、肺高血圧外来を新たに新設するなど、疾患の早期診断・治療と予後の改善に努める活動が見られた。</li> <li>・啓発活動も着実に実施している。</li> </ul>
生活習慣病・ 慢性腎臓病 (CKD) 病態 治療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他大学・他施設間で連携しながら、CKD と生活習慣病の発症・重症化予防のための地域保健医療連携システムと多因子・集約的治療の開発に向けた成果が確認できる。一般市民に対しての積極的な疾患啓発活動も優れており、さらなる展開が期待できる。</li> <li>・CKD 継続講座として、多くの成果をあげた前事業をさらに発展させることを期待する。事業継続としての今年度の着実な継続は認められる。</li> </ul>

東白川整形外科アカデミー	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄附目的に沿った研究活動が行われ、期待通りの研究成果をあげているものと認められる。</li> <li>・ 外来受診者に対して整形外科診療に対するアンケート調査が実施されている。</li> <li>・ アンケート調査を行うのであれば、整形外科診療に対する地域のニーズも明らかにし、それに対する対応策が検討されているとよいと思われる。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期待通りの活動がなされている。</li> <li>・ 少ないスタッフでの活躍が見られる。</li> <li>・ 引き続きの成果を期待する。</li> </ul>
疼痛医学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国の組織との連携が見られる。</li> <li>・ 疼痛に対する診断や治療に関わる多職種チームを立ち上げ、慢性疼痛を有する患者に対して新たに開発した入院型のペインマネジメントプログラムの有効性を示している。</li> <li>・ 他大学との統一性の検討。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 星病院内に慢性疼痛センターを設立し、慢性疼痛を有する患者に対する入院型ペインマネジメントプログラムによる診療の実績をあげている。</li> <li>・ 患者の状況に応じた対応が求められる。</li> <li>・ 症例を積み上げて、成果をあげることを期待する。</li> </ul>
周産期・小児地域医療支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄附講座の研究活動に即した取り組みがなされ、須賀川市及び周辺地域における周産期・小児医療の実態と問題点が明確になるとともに、基幹病院の役割の重要性を再認識した。</li> <li>・ 須賀川地方における周産期・小児医療のニーズとそれへの対応、死亡率などのデータ収集、後期研修プログラムの構築は、周産期・小児医療における地位医療の重要なモデルケースになると思われるため、その成果をまとめて学術論文等に報告することが望まれる。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄附講座の目的に沿った診療活動がなされており、須賀川市及び周辺地域における周産期・小児医療を充実させるために大きく貢献している。</li> <li>・ 専門医制度との関連も図る。</li> </ul>
地域整形外科支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重度四肢外傷治療に対して新たな治療法を導入し、治療期間短縮と機能予後の改善を示すなどの成果をあげている。</li> <li>・ 研究成果はもとより、当地域の整形外科医療体制の充実に大きく貢献いただいている点においても、高く評価できる。</li> <li>・ 人材確保に期待する。</li> <li>・ 今後、論文発表等、さらなる研究活動を期待したい。</li> </ul>

地域整形外科 支援講座	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重度四肢外傷治療に対して新たな治療法を積極的に導入し、手術件数を増加させるなど、少ない構成員にもかかわらず十分な診療実績をあげている。</li> <li>・ いわき地域の診療体制の充実に大きく貢献している。</li> </ul>
外傷学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外傷データベース構築による外傷治療成績の評価法の確立と、骨関節感染症に対する PRT-CT での診断法の確立にむけて順調な進捗がみられる。</li> <li>・ 一層の研究活動を期待する。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PET-CT 18 件など、順調な症例数の蓄積がみられ、診療における実績が確認できる。</li> <li>・ 手術件数、外来・入院とも多くの診療実績をあげている。</li> <li>・ 症例を積み上げて、成果をあげることを期待する。</li> </ul>
消化器内視鏡 先端医療支援 講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胃静脈瘤内視鏡治療トレーニングキットの開発などを通じた優れた内視鏡医の育成や、門脈血行異常症の診断ガイドライン作成や治療法の開発への取り組みがみられる。</li> <li>・ 症例数の増加があり、実績がみられる。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 南東北病院と福島県立医科大学附属病院において、新たな内視鏡治療法の導入や内視鏡医の育成を行うなどの実績がみられる。</li> <li>・ 人材育成など県内での内視鏡治療のレベルアップを期待する。</li> </ul>
スポーツ医学 講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フィールド調査もされている。</li> <li>・ スポーツ外傷に対する英文での論文報告や学会報告、講演会や講習会を通じた啓発活動が多数見受けられる。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内 3 カ所の病院内にスポーツ外来を開設し、スポーツ外傷・障害に対応可能な医師や医療スタッフの育成と派遣を行い、外来診療で実績をあげている。</li> <li>・ 引き続きの成果に期待する。</li> </ul>
外傷再建学 講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外傷再建センターを発足し、治療を開始した。</li> <li>・ コメディカルスタッフの育成に言及している。</li> <li>・ 症例を積み重ね、データ収集しながら分析を進めることとしており、その成果を期待する。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置目的として掲げた活動内容に沿って期待以上に活動が展開されており、今後の目標に向けても積極的に取り組んでいるものと認められる。</li> <li>・ 高度外傷への挑戦がみられる。</li> <li>・ 医師、コメディカルの育成において、成果をあげることを期待する。</li> </ul>
生体機能イメ ージング講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 癌や認知症などの疾患を多角的に診断することが可能となる。</li> <li>・ 多数の学会活動がみられる。</li> <li>・ 今後の研究成果に期待する。</li> </ul>

多発性硬化症 治療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MOG抗体関連神経疾患について症例を蓄積し、解明を行う。</li> <li>・論文が多数発表されている。</li> <li>・治療につながる解析を期待する。</li> </ul>
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連施設、関連診療科との交流がある。</li> <li>・治療につながる研究活動を期待する。</li> </ul>
医療エレクトロニクス研究 講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな神経回路、食欲因子の発見など、重要な研究成果とみられるが、計画との対比が明確でない。</li> <li>・基礎研究についての6つの論文を作成している。</li> <li>・設置目的にある研究に、さらに取り組んで欲しい。</li> </ul>

【注】評価 ※ ( ) は進捗状況・達成状況のイメージ

S・・・優れている。(計画の100~120%程度)

A・・・評価できる。適切である。(計画の80~100%程度)

B・・・やや改善を要する。(計画の60~80%程度)

C・・・改善を要する。計画を実施できていない。(計画の60%未満)

## 5 意見等

各寄附講座の研究活動を推進するとともに、より効果的な成果を上げられるよう、寄附者及び寄附講座アドバイザー等から以下のような意見等がありました。

### (1) 助言等の概要

- ① 少人数で研究活動・診療活動を実施している現状及び地域医療の発展の点から、医師の確保・育成に努めるよう意見がありました。

【肺高血圧、災害医療、地域救急、地域整形、地域産婦、消化器内視鏡】

- ② 医療ニーズのデータ収集と分析により、各地域の医療実態に見合った研究活動及び診療活動を期待しているとの意見がありました。

【周産期・小児、災害医療、地域救急、東白川】

- ③ 一般市民への啓発活動が優れているとの意見がありました。

【生活習慣病、災害医療、地域救急】

### (2) 各寄附講座における助言等への対応について

助言等への対応について、各寄附講座より以下のような報告がありました。

- ① 医師確保については、期間を通じてリクルート活動を行っており、うち一部の講座は関係機関との調整も行っているとの報告がありました。

【災害医療、地域救急、地域産婦】

また、積極的に若手医師への指導を行い、専門医を育成している旨の報告もありました。

【肺高血圧、地域整形、消化器内視鏡】

- ② 実態調査を継続し、医療ニーズおよび基幹病院との連絡調整に基づいた研究を推進するよう努めたいとの報告がありました。

【周産期・小児、災害医療、地域救急、東白川】